

発刊のことば



青森工事事務所長 早坂 征三

岩木川における国直轄による本格的な治水事業が始まって以来、平成10年12月1日をもって80周年を迎えることとなりました。

大正7年12月1日に当時の五所川原町に内務省秋田土木出張所岩木川改修事務所が設置され、以後、幾多の洪水に見舞われながらも、各地区の築堤工事、十三湖水戸口突堤工事、十三湖囲繞堤工事、目屋ダムや浅瀬石川ダムの建設工事など治水対策が行なわれてきました。

また、これらの事業により新たな開田や圃場整備などが進み、今日のような肥沃で広大な津軽平野の姿となっております。

岩木川は、津軽平野を潤す「母なる川」として、地域の人々に愛され親しまれると同時に多くの恵みをも与えてきました。

治水事業が始まって以来、今日まで80年の歴史を顧みるとき、地域の発展に尽くされた先輩諸氏並びに御支援と御協力を賜った関係各位に対して、心から感謝申し上げます。敬意を表する次第であります。

近年の社会経済の変化、河川環境等に対する国民のニーズの増大に応えるべく、平成9年6月に河川法の改正が行われました。

今回の改正では、「河川環境の整備と保全」が目的に追加され、更には、地方公共団体、地域住民の方々等の意見を反映した河川の整備計画を策定する仕組みとなっており、地域との連携の強化、体制の整備が今以上に求められています。

この度の80周年を機に、新たな歴史の一步を踏み出すにあたり、まだ十分とは言えない岩木川の治水安全度の向上を目指し、安全で安心できる国土の形成はもとより、自然と調和した個性あふれる活力ある地域社会の形成のため、地域の方々との連携を強化し、一体となって事業を推進して参る所存でありますので、なお一層の御理解と御協力を頂ければ幸いです。

本書には、岩木川の「水との闘い」「治水の歴史」「水利用」「これからの川づくり」など収録いたしました。この治水史によって、今後の岩木川の治水・利水事業、さらには、岩木川流域の地域づくりの基礎資料として、各方面で積極的に利用していただければと願っております。

最後に、御多忙の中、本誌の編纂の労を煩わしました方々に感謝申し上げますとともに、貴重な資料を御提供頂きました方々に厚く御礼申し上げます。発刊の言葉とします。